

## 令和５年度 第４回川崎市社会教育委員会議・中原市民館専門部会 会議摘録

- 【日 時】 令和６年２月１７日（土）１３時３０分から１６時１５分まで  
【会 場】 中原市民館２階音楽室  
【出席者】 鈴木部会長、菊地副部会長、梶川委員、中道委員、但野委員、滝沢委員、  
木村委員  
【欠席者】 日吉委員  
【事務局】 福田館長、船津係長、大久保係長  
【傍聴者】 ０人

専門部会の委員８人中７人が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

- １ 開会
- ２ 部会長あいさつ
- ３ 館長あいさつ
- ４ 資料確認
  - 資料１ 令和５年度第３回川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録（案）
  - 資料２ 令和４・５年度審議テーマ「ふらっと立ち寄れる市民館」報告書（案）
- ５ 令和５年度第３回専門部会の摘録（案）について
- ６ 議事
  - (１) 令和６年度中原市民館市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会
  - (２) 令和６年度中原市民館市民自主学級・市民自主企画事業の選考 ※非公開
  - (３) 令和４・５年度審議テーマ「ふらっと立ち寄れる市民館」のまとめ
  - (４) その他
- ７ 閉会

## <会議録・質疑応答>

### 1 開会

事務局（船津係長）

### 2 部会長あいさつ

鈴木部会長

### 3 館長あいさつ

事務局（福田館長）

### 4 資料確認

事務局（船津係長）

### 5 令和5年度第3回専門部会の議事録（案）について

事務局（船津係長） 資料1について説明し、了承を得た。

### 6 議事

#### (1) 令和6年度中原市民館市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会

事務局（大久保係長） 本日の提案会について説明する。中原市民館では、市民と市民館が協働で「市民の学びの場」をつくることを目的として、事業の募集をした。本日の提案会は、事業を選考するにあたり、提案団体から直接、事業内容について伺う場として開催するものである。進行方法は、説明と質疑を順番に進める形とする。企画提案者から説明を行い、選考する委員及び職員から質疑をする。質疑が終わったら、次の団体に説明いただくという形とする。説明の順番は、①16mm映写機の会、②音楽工房ドレミ、③中原の課題を共有し解決していくプロジェクト、④デジタルサポートの会の順でお願いしたい。説明時間は10分以内、質疑は5分程度でお願いしたい。

続いて、本日の出席者を紹介したい。（専門部会委員、企画提案者、市民館職員自己紹介）

それでは、企画提案説明に入りたい。16mm映写機の会から提案内容について説明をお願いしたい。

16mm映写機の会 2018年に中原市民館で行われた市民エンパワーメント研修に参加し、参加メンバーで市民活動をしていこうという話になり、高齢者には懐かしさ、若い世代には新しさを感じてもらいたいと考えた。川崎プロボノ部に参加し地域とのコミュニケーションの大切さを知った。Kawasaki教室シェアリングプロジェクトでは小学校の有効利用を知った。16mm映写機の使い手を広げたいと思い企画した。イベントを実施すると、祖父母の世代から親御世代、孫世代まで来る。コミュニケーションが取れている姿をみると世代間のふれあいな

どに貢献できると感じる。幼稚園の卒園イベントでは、上映前まではしゃぎ回っていた園児が上映が始まると落ち着き、終わると親御さんたちが映写機の周りに集まってきてくれた。三世代共通の話題になると実感した。高齢者施設での上映会でも上映前は疲れた顔が散見していたが、上映後は目の色が変わったように感じた。K a w a s a k i 教室シェアリングプロジェクトで2校の小学校で上映したところ好評をいただいた。学校の先生や学校でのイベントを検討している方に観ていただき、相談し合える環境づくりを進めていきたい。防災団体との連携イベントも行っている。中原市民館には、連携先の紹介などの助言などで活動の広がりを支援していただきたい。

菊地副部長 小学校で上映したアニメのタイトルと施設でのイベントの内容、会場やスクリーンの大きさを教えて欲しい。

16mm映写機の会 タイトルは失念したが、平間小ではSDGsに関連する昔話などを上映した。高齢者団体の施設では昭和40年代のドラマを上映した。中原市民館の多目的ホールで2度実施したほか、会場の広さに応じて開催している。

鈴木部長 白い壁であれば、スクリーンが無くとも上映可能か。

16mm映写機の会 可能だが、明るさがポイントなので、なるべく会場を暗くした方がいい。屋外で日中に上映したことがあるが、その際はテントを借りて上映した。

事務局（大久保係長） 続いて、音楽工房ドレミから提案内容について説明をお願いしたい。

音楽工房ドレミ 今回の事業は、子どもための音楽ワークショップ（音ワーク）としている。去年、中原区市民提案型事業で開催した事業である。子どもたちに生の音楽を届けたいと考えている。市民提案型事業では、普段聞かない弦楽器の音楽を聞かせたり、サックスの演奏体験をしたりした。参加した子どもたちにアンケートを実施したところ、体験をしたいという声が多く寄せられた。子どもたちの体験ワークショップの実施にふさわしい事業を探したところ、市民自主事業にたどりつき応募した。ワークショップには、子どもたちだけで参加してもらうのではなく、親御さんも一緒に参加してもらう設計にしている。親御さんとの会話を増やす、一緒に学んでもらうというねらいがある。ただし、子どものみの参加もありとしたいと考えている。中原市民館と協働しようとしたきっかけは、なかはら子ども未来フェスタの際に中原市民館の会場で講師を担当し、その際に職員も知ったことが契機となった。音楽を学ばせることは難しい。受験に関わらないため、二の次になりやすいので、親御さんと一緒に学ぶ機会をつくりたい。中原区、川崎市から音楽家が輩出される環境をつくるのが願い。ワークショップには、音楽

家に依頼することも考えている。自分たちも講師となることができるが、私は声楽家だが、それ以外の楽器、昨年度に実施したバイオリンではない楽器、打楽器などを検討している。将来的には指揮者にも来てもらいたい。企画した4回講座のうちの1回に食育を入れている。理由は、イタリアやフランスなど音楽家が居住している地域の料理と一緒に食べることによって、音楽家の食事についても学ぶ機会になったらよいと考えたからである。また、音楽を学ぶことに対する敷居を低くするため、料理に関する回を入れている。中原市民館との協働は、団体の知名度の向上が必要で、一からの出発ではあるが、ひとりずつ音楽家の輪を広げ、川崎市での音楽の発展にも貢献したいと考えている。

木村委員 主な事業内容として、木曜日の午前中とあるが、学校がある。対象として幼いお子さんを想定されているのか。

音楽工房ドレミ 夏休みを利用して事業を実施することを企画している。

鈴木部会長 メンバーの中には学習を担当できる方はいるか。

音楽工房ドレミ 私自身が声楽家で歌やピアノの演奏ができる。ほかにはピアニスト、サックス奏者などがいる。

木村委員 先ほどお話しいただいた内容を、企画提案書の企画意図欄に記載していただけたら良かったと思う。

事務局（大久保係長） 続いて、中原の課題を共有し解決していくプロジェクトから提案内容について説明をお願いしたい。

中原の課題を共有し解決していくプロジェクト 気づきにくい地域課題を明らかにして、関係者、区民と情報共有し、今まで取り組んでいる団体、関心を持つ区民と一緒に、課題解決に向けた活動に結びつけていくための講座として、ワークショップのようなものを5回程度実施したいと考えている。理由としては、会合で団体から後継者不足の話を聞き、後継者不足をどのように解消するのかを考えた際に、講座を開いて、後継者を育成すると手法があると思った。何もバックボーンが無い人間を市民活動ができる人材にするために10年、20年という時間を要するのではないかと思ったが、視野を変えてみると、例えば、子育て関係の活動をされている方はいる。興味を持つ個人もいる。そうならば、そのような方を集めてコミュニティにしていけば、関係者の人数が増えていくので、後継者不足の解消につながるのではないかと考えた。子育てが孤独な育てにならないようにすることや、災害への対策などの課題が考えられると思っている。また、いまの30代、40代もいずれ孤独な高齢者になる可能性があるので、そのような人を巻き込みながら活動し、サポートすることによって、孤独・孤立しない地域社会の実

現につながるのではないかと考えている。さらに、保育を併設することで、子育てで孤立しがちな方にも学びの機会を提供することも視野に入れている。5回程度の講座でこのような課題は解決しないと思うが、この講座はコミュニティを生むためのきっかけづくりであり、次につながるような講座にしたいと考えている。

木村委員 ソーシャルデザインセンターにいらっしゃるということだが、ソーシャルデザインセンターで実施されず、市民自主事業で実施される理由と、たくさん挙げられた課題の中で、今回は誰に向けて何をやるのかを教えて欲しい。

中原の課題を共有し解決していくプロジェクト ソーシャルデザインセンターは、まさにこのような課題に対応していくものだが、中原区のソーシャルデザインセンターはそれ自体として活動をしていくのではなく、母体と考えている。

木村委員 市民館では何をしたいと考えているのか。

中原の課題を共有し解決していくプロジェクト まず子育ての部分、孤独な子育てにならないようにという課題の解決、それと防災、減災、災害への備えという課題の解決をテーマにコミュニティづくりをしていきたいと考えている。

木村委員 目的としては、コミュニティをつくるのが目的になるのか。

中原の課題を共有し解決していくプロジェクト そう思っている。いずれコミュニティが自走していくようになることを目指したいが、そこに至るには時間が必要なので、種まきの部分を行いたいと考えている。

木村委員 後継者不足の話をされていたが、どのようにつながっていくのか。

中原の課題を共有し解決していくプロジェクト 子育てと災害への備えには市民活動の後継者不足が生じていると聞いているので、その2つから始めたいと考えた。

事務局（大久保係長） 続いて、デジタルサポートの会から提案内容について説明をお願いしたい。

デジタルサポートの会 令和3年度にコロナワクチンのインターネットによる申し込みが始まった頃、インターネットを思うように操作できず、お困りになったシニアが多かった際に開催された市民エンパワーメント研修に参加したメンバーと、過去2回市民自主事業を実施した際のメンバーを中心に事業を実施したいと思い申請をした。デジタル化に取り残された方がいるのが社会的な課題となっている。そのような方への支援を目的とした事業である。デジタル支援者の養成と支援を求める方への講座の開催による支援の2点を実施したいと考えている。

但野委員 会場使用料を計上しているのが、どのような場所を想定しているか。

デジタルサポートの会 公の施設の利用を検討している。

但野委員 市民館以外の会場で実施する意図を教えてください。

デジタルサポートの会 違う場所で実施することで、広く来場者を募ることが期待できると考えている。

木村委員 継続して参加される方もいるのか。

デジタルサポートの会 団体としては養成者になりたいという意思を持つ方には継続して参加してもらっている。講座への参加者は概ね新規の参加者となっている。

事務局（大久保係長） 最後に各団体から、言いそびれてしまったことや、改めて伝えたいことなどを、お伝えいただきたい。

16mm映写機の会 中原区で広めていきたいという思いがある。16mm映写機の投影はスクリーンだけでなくホワイトボードなどでも可能で、会場に応じて対応ができる。講座では操作方法のほか、実際に上映会をする流れを学んでもらう。

音楽工房ドレミ 昨年実施した事業ではアンケートを実施した。子どもたちは自分の字で、イベントに参加してよかった、お父さん、お母さんと参加して楽しかったと書いてあった。講師は極力、中原区在住あるいは川崎市在住の方を招こうと考えている。近くによい音楽家が居ることを知ってもらいたい。

中原の課題を共有し解決していくプロジェクト 地元のつながりの中で生活できていることをとてもハッピーに感じる。コミュニティの力を実感している。自分たちが得たものを社会に還元するために、コミュニティを作っていくために、取り組んでいきたい。

デジタルサポートの会 スマホに慣れていないシニアがたくさんいる。そういう方々の支援を引き続きしていきたい。特に市民館と一緒に実施することで広報が行き渡りやすい。中原区在住以外の方にも来ていただいているので、市民館と一緒に実施したいと思っている。

事務局（大久保係長） 以上で企画提案会を終了したい。なお、今後のスケジュールだが、3月中旬以降を目安に、選考結果を提案者へ知らせる予定となっている。

(2) 令和6年度中原市民館市民自主学級、市民自主企画事業の選考 ※非公開

(3) 令和4・5年度審議テーマ「ふらっと立ち寄れる市民館」のまとめ

鈴木部会長 次に、令和4・5年度審議テーマ「ふらっと立ち寄れる市民館」のまとめについてになる。これまでの経過等について、事務局より説明をお願いしたい。

事務局（船津係長） 報告書については、ある程度の形として、専門書の体を整えるに至っている。一番重要と思われるところとしては、委員に参画していただいた「ふらっと立ち寄ろう！中原市民館」の企画である。写真を交えて記載しており、記述が不十分なところもあるが、イメージとして捉えていただければと思う。逐一議

論をするのは難しいと思うので、雰囲気をつんでいただいて事務局の責任校正という形にさせていただきたい。今後の展望としては、紹介動画の作成とあるが、今後の課題として考えていかなければならないと思っている。すでに一度集まっていたいただき、議論をしたところである。お配りした表により日程調整をさせていただき、今年度もう一度ワーキングを開かせていただきたいと思っており、計2回の総括として書き込めるなら、報告書に追記したいと思っている。また、図書館との連携については、現実的に実施可能な部分なので、今後の課題として述べさせていただいた上で、実現可能な方向性を探っていきたいと思う。委員からの一言については、各委員に御協力をいただいて、この2年間携わった感想などについて、それぞれの思いを書いていただけたらと思う。なお、この報告書に関してだが、社会教育委員会では、このような報告書を作成していないという話であった。各館の専門部会では作成しているのだが、話し合いに重点を置くという方向で改善をしていきたいという話もある。このような報告書を作成するよりも、話し合いをより充実したものにする方向で進められるのだとしたら、来年度の企画提案会には、より時間をさけることにもなるところもあるので、改善していけたらと思う。他館についても、報告書を作成しない方向で進んでいくものと思われる。

木村委員 何年ぐらい報告書を作成していないのか。

事務局（船津係長） およそ10年ぐらいは作成していない。

木村委員 そんなはずはない。

事務局（船津係長） 調べたが、報告書は見つからなかった。

事務局（福田館長） 調査研究テーマとして、1年をかけて「ふらっと立ち寄れる市民館」になったと思うが、報告書については、社会教育委員会では作成していないと聞いている。他館も報告書の作成が負担になっている。それよりも、4回の議論をしっかりとるか、日々の市民館の活動であったり、市民館にまつわるところの御意見をいただきながら、改善すべきところは変えていくといったことをしている方がよいかと思う。もちろんテーマを決めて話し合いをするという方法もあるので、それはその時のやり方だと思う。今回はこのように行うということ、それぞれの中で決めていけばよいのではないかと。報告書を作成するのに一生懸命になって、本筋がどこかにいってしまっても困る。議事録も残る。もし伝えるべきものがあるとなれば、その際に形を考えればよいのではないかと。報告書は、これで終わりにするということになる。

木村委員 社会教育委員会が報告書を作成していないというのが疑問だ。

事務局（船津係長） 探したが無かった。無いという話も聞いている。

事務局（福田館長） 調査研究テーマというものを設けていないという話を聞いている。

木村委員 委員の人数が多いから話がまとまらない部分があるのでは。テーマが一つに絞れないので、各委員が発言したことを一冊にする形なのではないか。

事務局（福田館長） それでは議事録と変わらないのでないか。

木村委員 審議会で無くなったことを境に、市民館からの諮問で審議するのではなく、委員に調査研究テーマを聞くように変わって行った。専門部会に丸投げするのではなく、館として課題だと考えていることを示すなどすべきではないのかと思う。これからも試行錯誤していった方がよい。報告書の作成に終始してしまうのはもったいないのはもちろんだが、何か改善されることがある方がよいと思う。

事務局（福田館長） 進め方が変わると思う。前回聞いていただいた指定管理者制度の導入の話などが例になると思う。次回の専門部会については、委員は令和6、7年度でお願いすることは変わらないので、令和6年度は現状と変わらないが、令和7年度は区の体制が変わる。そこをどのように進めるか。また、指定管理者になると、利用者懇談会として、指定管理者が利用者の意見を聞くという制度が作られるので、専門部会との関わりを考えていかないといけないのと、組織体制も変わってくるので、市民館に求めるものを皆さんの意見をお聞きすることも出てくるかもしれない。

木村委員 アリーノには専門部会があると思う。話を聞ければよいが。

梶川委員 委員からの一言は、何文字ぐらいで書けばよいのか。

事務局（船津係長） 200～300文字程度で、3月15日を目安にお願いできたらと思う。それと同時並行で、報告書の内容について気になる部分などあれば、御指摘をいただければと思う。

木村委員 気になったところとすれば、「はじめに」の前に1などを入れてもらって、テーマ設定を2として、「ですます調」「である調」を統一してほしい。

※ 会議終了後、社会教委員会議の研究報告書について確認したところ、令和2・3年度までの研究報告書は作成されていたが、令和4年度は川崎市社会教育委員会議の活動として、研究ではなく審議テーマについて、会議開催日ごとの主な内容がまとめられたものに変更されていた。

#### (4) その他

事務局（船津係長） 次に進めさせていただきたい。来期の委員の就任について、推薦をお願いしたい。母体から出席されている方については、それぞれの長の方あてに推薦の依頼をさせていただく。期限を4月初旬にさせていただく予定だが、メンバ

一の構成を検討する必要があるので、後日依頼をさせていただくことになるのを  
お伝えしたい。学識の方と市民委員の方については、別途、個別に御相談させて  
欲しい。

鈴木部会長 他になければ、進行役を事務局にお返しする。

事務局（船津係長） これですべての案件が終了した。以上で令和5年度第4回社会教育委  
員会議中原市民館専門部会を終了とする。

## 7 閉会